

令和6年度 あさがお福祉会事業報告書(案)

1. 第1種社会福祉事業

- ①軽費老人ホームの経営
ケアハウスあさがお 定員50名
- ②地域密着型介護老人福祉施設の経営(令和2年4月開所)
かごやライフ 定員29名
- ③母子生活支援施設の運営
TSUBAME 定員20世帯(令和5年8月開所)

2. 第2種社会福祉事業

- ①老人居宅介護等事業の経営
ホームヘルパーステーションあさがお
- ②認知証対応型老人共同生活援助事業の経営
グループホームあさがお 定員18名
- ③老人デイサービスセンターの経営
つだまちキッチン 定員25名(平成29年2月増改築・増員)
- ④小規模多機能型居宅介護の経営
小規模多機能型居宅介護あさがお 定員29名
- ⑤障がい児通所支援事業の経営
つだまちキッズ 定員10名
つだまちスマイルキッズ 定員10名(令和1年10月開所)
- ⑥幼保連携型認定こども園の設置経営
みつぼしこどもえん 定員90名
- ⑦障がい者共同生活介護の設置経営(平成29年4月開所)
つだまちリビング 定員5名
つだまちリビング2リバーエッジ 定員6名(令和6年7月合併)
- ⑧短期入所生活介護事業の設置経営(平成29年9月開所)
かごやリゾート 定員20名
- ⑨放課後児童健全育成事業
あさがお学童保育クラブ 定員40名(平成30年4月開所)
- ⑩障がい者就労継続支援B型
TSUDA-MACHI Works 定員20名(令和6年6月開所予定)
焼き鳥とおばんざいの店ー平ちゃん

3. 公益事業

- ①居宅介護支援事業所の経営
ケアネットあさがお
- ②サービス付き高齢者住宅の経営
シニア向け長屋住宅あさがお邸(定員18名)
- ③高齢者有料老人ホームの経営
かごやステイ(定員10名)

4. 徳島市委託事業

配食サービス事業の経営

配食サービスセンターあさがお

5. 居住支援法人事業(令和7年度開所予定)

6. その他の事業

①コミュニティーカフェの経営

茶房うてび庵

②ユニバーサルカフェの経営

つだまちキッチン(令和6年5月に就労継続支援B型へ移行)

③こどもの居場所づくり事業の運営

The Third Place の運営(令和3年4月開始)

④地域福祉相談窓口の運営

ふくしの窓口(令和5年10月開始)

事業方針： 令和6年度

「健全経営」

「あさがお福祉会の SDGs と今後10年10の目標」

○法人全体事業報告

長引くコロナ禍の影響により、疲弊していたショートステイ事業において、令和6年4月より全ユニットが再稼働の運びとなった。介護事業においては厳しい経営環境ではあったが、リゾートのV字復活により法人全体の安定化に繋がった。また、児童関係事業においては引き続き好調であり収益の柱となった。新規の障害就労継続支援B型に関しては、店舗での売り上げは好調だが、利用者獲得に時間を要するため大幅な赤字計上となった。ただ、令和7年度より利用増が見込まれており、次年度は大幅な収益確保が期待される。

① 既存事業及びサービスの見直し

引き続きコロナ禍の余韻があり、既存サービス内容の見直しは十分ではなかった。しかし、次年度に向け、良質なサービスを提供する現場のスタッフ育成に注力できるよう、AI等の活用により研修体制の見直しやシステム構築に向けた準備期間としての年であった。

② 法人のブランディングの徹底

本年度は広報に力を入れ、年間レポートとパンフレットを纏めた冊子を作製した。今までの取組や年間の出来事などを可視化し、学生からご利用者のご家族が見ても内容が分かる冊子づくりに努めた。見られた方から好評をいただき、法人の価値が高まった。

③ NewBusiness の開発

本年度は、障がい者就労移行支援B型を開設した。焼き鳥屋を中心とする事業であり、既存の飲食事業も障がい者就労継続支援 B 型事業に移行したため社会福祉2種事業となったため非課税となる。

④ 医療とのパートナーシップ強化

関係医療機関と密に連携し、各事業所の課題等を話し合う場を設けたことで医療との連携の糸口が確認できた。また、医療法人と連携した運営会議や経営会議を開催し、双方の課題等が確認できた。

⑤ 新たな働き方の提案

グループ内でのダブルワークや他事業所でのアルバイトも許可することで所得アップを提案した。

⑥ 地域とのより良い関係の構築

かごやライフにて、こどもカフェを開設予定であったが、感染防止のため現在も稼働していない。ただしライフにてオレンジcafeは定期的に開設している。

⑦ AI・ICT の積極的な導入

リモートにてセミナーや会議が開催されるようになったが、法人内研修等も動画を作成し、スタッフが夜勤帯にて学習できる環境整備をした。

⑧ 他業界との業務連携

今年度は積極的には連携できていなかったが、次年度へのきっかけとして、アーティストや飲食関係者とコラボレーションの提案を企画中である。

⑨ ふくしを10年後のなりたい仕事 TOP10に UniversalWork の推進

今年度は全国で講演をする機会があり、福祉のお仕事の素晴らしさやその矜持を伝えるよう尽力した。

⑩ 次世代の NewHero の育成

本年度は、やはりコロナの影響により育成は出来ていない。次年度は、あさがお若手スタッフを主軸に、より福祉の魅力ややりがいを伝え、AI ができる次世代のヒーローを育てたい。

OBCP作成及び災害対策

一昨年度を振り返り、自然災害が多かった年でもあることから、災害時に強い法人運営を目指す予定であったが、コロナに対する感染予防対策マニュアルの作成やクラスター発生時の対応策などを策定するに留まった。